

## 発達障害と SST・ビジョントレーニング・支援介助法

### －障害児の困り感にどう寄り添うか－

#### ◇ シンポジウム詳細

1. 日時 平成 25 年 9 月 15 日 (日曜日) 13:00～17:00 (12:30 受付開始)
2. 会場 大正大学 中央館 1021 教室
3. スケジュール  
12:30～13:00 受付  
13:00～13:30 発達障害と SST (斎藤富由起・守谷賢二)  
13:40～15:00 ビジョントレーニングの実際 (北出勝也)  
15:10～16:30 パニックと支援介助法 (廣木道心)  
16:30～17:00 座談会 ー障害児の困り感をどう支えるかー
4. 定員 200 名
5. 参加費 2000 円 (学生 1000 円)

#### ◇ アクセス

 **大正大学** TAISHO UNIVERSITY 〒170-8470 東京都豊島区西巣鴨 3-20-1  
TEL 03-3918-7311 (代) FAX 03-5394-3046



- 都営地下鉄三田線……西巣鴨駅下車 徒歩 2 分
- JR 埼京線……板橋駅東口下車 徒歩 10 分
- 池袋駅東口から都バス……堀割バス停下車 徒歩 2 分  
6 番乗り場 西新井駅前行き、北車庫前行き、新田一丁目行き  
7 番乗り場 浅草雷門行き(王子駅前経由)
- 11 番乗り場 浅草寿町行き (巣鴨駅前経由)
- 12 番乗り場 とげぬき地蔵(巣鴨車庫前)行き

※大学内の駐車場は使用できません。

※大学に託児施設はありません。

東京 SST 研究会『飛ぶ教室』開催記念：支援介助法 DVD 発売記念シンポジウム

## 発達障害と SST・ビジョントレーニング・支援介助法

### －障害児の困り感にどう寄り添うか－

2005 年より練馬区立総合教育センターにおいて SST(ソーシャルスキルトレーニング)巡回相談制度が開始されました。その時の SST 指導員のメンバーが中心となり、東京 SST 研究会「飛ぶ教室」は生まれました。現在では公立小学校・中学校を中心に活動の輪が広がり、通常学級や特別支援学級で SST を行っています。幸いなことに、私たちの活動が「児童期・思春期の SST－特別支援教育編－」（斎藤富由起・守谷賢二編：三恵社）として本年 4 月に出版されました。読者のからの反響は大きく 3 つのリクエストに分類できました。

- ① SST についてもっと気軽に参加できる研修会や勉強会はないだろうか。
- ② ビジョントレーニングの実践例を知り、できれば定期的な指導を受けたい。
- ③ 支援介助法のトレーニングを体験してみたい。またその実際を見てみたい。

勉強会についてあらためて検討すると、SST の情報をやりとりしたり、スキルを研鑽する場は意外なほど少ないことがわかりました。勉強会というと敷居の高さを感じることもありますし、日々の多忙さから毎回出席できないこともあって、こうした会に参加したくても遠慮している方がたくさんいらっしゃることも知りました。

そこで私たちは 2013 年 5 月 5 日に東京 SST 研究会「飛ぶ教室」を立ち上げました。当事者とそのご家族、SST の実践家の誰しもが気軽に参加でき、交流を持ち、スキルを磨いていける場を作っていきたいと思います。シンポジウムでは「飛ぶ教室」の活動とともに、発達年齢に応じた SST のアイスブレイクをご紹介します。

ビジョントレーニングについては、その注目度に驚かされる反面、「本の情報だけでは実践が心もとない」「どこでトレーニングを受けられるのか」「指導は受けられるのか」というご指摘が寄せられました。そこで教育現場のビジョントレーニングの第一人者である北出勝也先生をお招きして、家庭や教育現場でできるビジョントレーニングの実践例を映像も交えて具体的に教えていただきます。

支援介助法については「お子さん（児童生徒）のパニック行動に困っている友人に紹介してあげたい」というリクエストが多数寄せられました。万が一にも激しい自傷他害行為が生じたとき、どのように接すればよいのでしょうか。こうした非常時のスキルを学ぶことは発達障害を持つ子どもとかかわる全ての人にとっておきたい心得の一つです。そこで本シンポジウムでは介護士でもあり、自閉症の子どもの父親でもある廣木道心先生をお招きして、代表的なパニック行動への対処法についてお話いただきます。

会場のみなさんと多くの意見を交換したいと考えております。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

東京 SST 研究会「飛ぶ教室」代表  
千里金蘭大学 児童学科  
斎藤 富由起

## 東京 SST 研究会「飛ぶ教室」からのお知らせ

### ー北出先生とともにビジョントレーニングを実践しませんかー

読み書きが苦手な子どもや運動が苦手な子どもへの視覚からのアプローチとして注目されているビジョントレーニングですが、教育・療育現場の実践は大阪を中心に展開しており、関東では主に不定期の研修会でしかありませんでした。そのため療育現場では「見る力のアセスメントをどこで受けたらいいの?」「本を参考にビジョントレーニングをやっているけれど、本当にこのやり方でいいのか、わからない。アドバイスがほしい」「教育現場での実践事例をもっと知りたい」といった声が聞かれていました。

そこで東京 SST 研究会「飛ぶ教室」では「児童期・思春期の SSTー特別支援教育編ー」（斎藤富由起編：北出勝也ほか）の出版を記念して、教育現場のビジョントレーニングの第一人者である北出勝也先生を定期的に東京にお招きし、見る力に困難を抱える子どもへの有効な支援方法としてビジョントレーニングを広めたいと考えています。

第一回の講演を記念して、シンポジウムにご参加いただいたみなさまへの特典をご用意しました。多くの方々のご参加を心よりお待ちしております。

東京 SST 研究会「飛ぶ教室」代表  
千里金蘭大学 児童学科 准教授  
斎藤 富由起

#### ◇ 参加者特典

<当事者：ご家族の方へ>

- ① 北出先生による「見る力」のアセスメント（一斉検査）：効果を確かめるために 2 回行います）を特別料金で優先予約できます。
- ② 別日にご家庭でのビジョントレーニングについて、北出先生からアドバイスを受けることができます（アドバイスを受ける機会は 2014 年までに計 4 回あります。本シンポジウムの参加者は 2 回まで無料です）。
- ③ お子様を対象にした集団でのビジョントレーニングワークショップに特別料金で参加いただけます（北出先生より指導を受けたトレーナーがワークショップを行います。通常 40000 円を 2000 円へ。場所は西武新宿線井荻駅徒歩 3 分の施設を予定）。

<支援者（学校、療育関係者ほか）：専門的にビジョントレーニングを勉強したい方>

- ① 東京での研修会やワークショップの予定をお知らせし、特別料金で参加できます（2014 年 4 月まで計 4 回を予定。一回の参加費は 2000 円程度です）。
- ② ビジョントレーニングの学校での実践例を定期的にご連絡します。

※個人的にビジョントレーニングの指導を希望される方は東京 SST 研究会のホームページ「飛ぶ教室」（<http://tobukyoushitsu.uijin.com/>）の「コンタクト」からご連絡ください。

## 子どもに痛みを与えないパニック対処スキルを学びませんか

ーパニック行動に悩むご家族・先生方へのご提案ー

ご家庭で子どもが興奮してパニックを起こし、お家のなかの壁に多くの穴があいているケースはありませんか。パニック対応のために保護者や先生が腕に青あざをつくったり、逆に、危険な自傷他害行動を抑えるために（よくないと思いつつも）力づくで子どもを抑えざるをえなかった事態はなかったですか。もちろん環境調整は大切ですが、最初から完璧な環境調整は至難の技です。

しかし、例えば教室を飛び出す子どもをどうやって止めればよいのでしょうか。危険な飛びだしも多々ありますが、子どもは意外にするりと抜けて出してしまいます。「学校内でパニックを起こしたら落ち着くまで待って、別室へ」と本には書かれていますが、パニックが激しい場合、教員や介助者は子どもにどのように触れて、どのような点に気をつけながら別室に連れて行ったらよいのでしょうか。中学生ともなれば、子どもの体も大きくなり、小学校の時のように子どもの体格差でパニックを抑えることはできなくなってきます。

理想を言えばおとなも子どもも互いに痛みを感じ方法でパニックに対処し、子どもが落ち着くまで丁寧に寄り添いたいものです。しかし、これまで危険なパニックが生じた際の身体のコントロール技法はありませんでした。そこで障害を持つ子どもの父親でもある廣木道心先生は環境調整の大切さを踏まえつつも、どうしても避けられないパニックが生じた場合の身体のコントロール技法である支援介助法を提案しています。昨年度、初めて支援介助法が東京で公開された際、発達障害を持つ子どもの保護者、特別支援学校、特別支援教室でパニック対応に悩んでいる先生方に大きな反響を呼び、このたび DVD が発売されることになりました。シンポジウムでは簡単な実技も含めて、「子どもに痛みを与えないパニック対処スキル」である支援介助法を、DVD を見ながら具体的に学びたいと思います。

「飛ぶ教室」では、パニックや突発的な行動に悩むご家族や先生方だけでなく、特別支援コーディネータ、学生ボランティア、発達障害関連の NPO で活動されている方々など、発達障害に携わる全ての人に支援介助法を知っていただきたいと思っています。パニックに悩んでいる方がいらっしゃいましたら、是非お声掛けいただき、一人でも多くの方のご来場を心よりお待ち申し上げます。

淑徳大学 こども教育学部 専任講師

守谷 賢二

※シンポジウムでは「嘔みつき」や「急な飛び出し」「自傷行動」のような典型的な突発行動だけでなく、「興奮してにらんでいる（声が大きくなってきた）場合の落ち着かせ方」や「友だちとケンカをして、言葉での仲裁が効かない場合の対処法」「フリーズしてしまい、椅子から立ち上がらない場合の気づかせ方」など、これまで寄せられてきた家庭・学校場面の課題場面の対処法についてもご紹介いただく予定です。

※参加者特典として、廣木先生にパニック行動について直接ご回答いただける質問シートを用意しています（守秘義務は厳守いたします）。パニックや家庭・学校内の不適応行動について相談されたい方はぜひご利用ください。

◇ シンポジストの紹介

**齋藤富由起 (さいとう ふゆき)**

早稲田大学大学院人間社会研究科博士後期課程修了。博士（人間科学）。臨床心理士。現在、千里金蘭大学生生活科学部児童学科科准教授および同大学生相談室室長。東京都スクールカウンセラーおよび大正大学、諏訪赤十字看護専門学校の非常勤講師を兼ねる。練馬区立総合教育センターソーシャルスキルトレーニング指導員。NPO 法人「子どもの権利条約総合研究所」運営委員。NPO 法人はらっぱ「子どもの権利条約アドバイザー」。元川崎子どもの人権委員会委員。

**北出勝也 (きたで かつや)**

関西学院大学卒業後、米国パシフィック大学カレッジ・オブ・オプトメトリーに留学。ドクター・オプトメトリーの資格取得。現在、視機能トレーニングセンターJoy Vision 代表。

**廣木道心 (ひろき どうしん)**

ロングライフ医療福祉専門学院 講師。自閉症で知的障いがある息子の父親として育児に通じてパニック時に自傷他傷行為の対応法を模索。ヘルパーとして福祉の現場に入り、「支援介助法」を開発。研究レポートがイタリア・ボローニャ大学のオンラインジャーナルにてイタリア語と英語で翻訳。支援介助法ホームページ：shienkaijyoho.com

**守谷賢二 (もりや けんじ)**

文教大学大学院人間科学研究科博士後期課程満期退学。臨床心理士。現在、淑徳大学教育学部こども教育学科専任講師。東京都及び埼玉県スクールカウンセラー。諏訪赤十字看護専門学校非常勤講師を兼ねる。練馬区立総合教育センターSST 指導助手。

※シンポジウム参加方法【ご予約の仕方】

本シンポジウムに参加希望の方は2つの方法があります。

(1) ホームページからの予約方法

東京 SST 研究会 「飛ぶ教室」 URL： <http://tobukyoushitsu.uijin.com/>  
のホームページの「シンポジウム参加予約」から予約を入れていただく。

(2) FAX での予約方法

予約用紙【別紙】に必要事項を記入いただき、「飛ぶ教室」までご送信ください。

東京 SST 研究会 「飛ぶ教室」 FAX： (03) 3996-7873

◇ 本シンポジウムに関する連絡先

東京 SST 研究会 「飛ぶ教室」 URL： <http://tobukyoushitsu.uijin.com/>

※上記ホームページの「コンタクト」より、ご連絡ください。

シンポジウム予約 (FAX)

2013年9月15日 シンポジウム 「発達障害と SST・ビジョントレーニング・支援介  
助法—障害児の困り感にどう寄り添うか—」の参加を希望します。

氏名 ( )

ふりがな ( )

【ご所属】 ( )

あてはまるものに○をおつけください。

・小学校教員 ・中学校教員 ・特別支援学校教員 ・特別支援学級教員 ・公立学校管  
理職・高校教員 ・大学教員・当事者またはそのご家族 ・スクールカウンセラー ・ス  
クールソーシャルワーカー ・教育相談機関職員 ・療育機関職員 ・NPO 法人職員 ・大  
学生 ・大学院生 ・医療機関職員 ・福祉施設職員 ・その他( )

氏名 ② ( )

ふりがな② ( )

【ご所属】 ( )

あてはまるものに○をおつけください。

・小学校教員 ・中学校教員 ・特別支援学校教員 ・特別支援学級教員 ・公立学校管  
理職・高校教員 ・大学教員・当事者またはそのご家族 ・スクールカウンセラー ・ス  
クールソーシャルワーカー ・教育相談機関職員 ・療育機関職員 ・NPO 法人職員 ・大  
学生 ・大学院生 ・医療機関職員 ・福祉施設職員 ・その他( )

氏名 ③ ( )

ふりがな③ ( )

【ご所属】 ( )

あてはまるものに○をおつけください。

・小学校教員 ・中学校教員 ・特別支援学校教員 ・特別支援学級教員 ・公立学校管  
理職・高校教員 ・大学教員・当事者またはそのご家族 ・スクールカウンセラー ・ス  
クールソーシャルワーカー ・教育相談機関職員 ・療育機関職員 ・NPO 法人職員 ・大  
学生 ・大学院生 ・医療機関職員 ・福祉施設職員 ・その他( )

◇ 本シンポジウムに関する連絡先

東京 SST 研究会 「飛ぶ教室」 URL : <http://tobukyoushitsu.uijin.com/>

FAX (03) 3996-7873